

学童保育ばーす千秋 利用料のご案内（令和8年度）

☆ 運営内容：

- ① 秋田市内の小学校に在学している1年生～6年生までの放課後の見守り
- ② 定員90名
- ③ 支援員並びに補助員6～10名体制
- ④ 季節に合わせた行事や、学外講師によるワークショップ等

☆ 基本開所時間

- 平日：12時～20時
土曜日：7時～20時
長期休：7時～20時
その他：開校記念日等に合わせた朝からの開所

☆ 休所日：日曜、祝日、お盆（8月8日～16日）、年末年始（12月27日～1月4日）

月曜祭日前の土曜日（7月18日・9月19日・10月10日・11月21日・1月9日・3月20日）

☆ 利用料：翌月27日に銀行引き落としにて清算。4月入学者の第1回目の集金は5月G.W.明け予定です。

- ① 入所費：10,000円（初回のみ）
- ② 毎月の利用料：15,000円（月額）
・長期休み時の別途の加算利用料等はありません。
- ③ 延長費：【平日】18時30分以降30分毎200円 【土曜】15時以降30分毎200円

※兄弟利用引、ひとり親世帯引等あります。お問い合わせください。

※夏休みや朝からの利用時、お弁当注文が必要な場合は別途お弁当代がかかります。

実費精算：1食550円程度です

お弁当持参の場合、料金はかかりません。

☆ 習い事（希望者のみ）月4回のレッスン

- ピアノ教室：木・金曜日 4,500円（月額）
- 書道教室：火曜日 3,050円（月額）
- 速読教室：個別対応 4,500円（月額）

☆ 学校からのお迎え費用

- | | |
|---------------|----------|
| 明德・附属 | ⇒基本徒歩通所 |
| 広面・旭川・東・泉・保戸野 | ⇒100円/1回 |
| 桜・外旭川・寺内・八橋 | ⇒150円/1回 |
| 高清水・牛島 | ⇒200円/1回 |

〒010-0877 秋田市千秋矢留町9-25

学童保育ばーす千秋

080-6924-1200 gakudo.birth.akita@gmail.com

<https://birth-akita.com/>



学童保育ばーす千秋のご利用にあたって

R7年8月吉日

1. 当学童保育について

当学童保育は、「合同会社 石岡」が2023年5月より運営しています。

学童保育とは、『児童福祉法第6条の3第2項の規定に基づき、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室や児童館等を利用して適切な遊びの場を与えて、その健全な育成を図るものです』と定義されています。

私たちは、子どもたちに「家庭」「学校」「地域」そして『第二の実家』としての「学童」というもうひとつの居場所を作りたいと考えます。

私たちは、小学生期というスポンジのごとく多くのことをどんどん吸収し成長できるこの時期に、どれだけ「関係人数」を増やせるか、どれだけ「才能の原石」を見つける場を創出できるのか、どこまで「自己肯定感」を高くしてあげられるのか、ということを経験目標として子どもたちを見守ります。

その子の才能がどこに隠れているのか、それを見つけるには、様々な角度からの視点やアプローチが必要です。家庭や学校では見せない一面に、キラリと光る何かがあるかもしれません。

その一瞬を見逃さず、保護者の皆様と共有し、一緒に成長を楽しめるようでありたい、と考えます。

夢や希望や笑顔、ワクワクやドキドキ、そして自信につながるようなものをたくさん吸収できれば、きっと自己肯定感の高い子となり、自分で道を切り開いていく子になると信じていますし、その逆も然り、です。

私たちは、様々な業界、年代、個性を持った大人とたくさん触れあう場面を作ることで、子どもたちの可能性と世界を広げられるような機会を創出していき、子どもの健全な育成に寄与したいと考えています。

【学童保育ばーす千秋の特色】

1. 秋田市中に友達ができる（市内の様々な小学校から利用があります。）
2. 各種習い事が併設（習字・ピアノ・速読等）
3. 施設長が元体育のお兄さん
4. 副施設長が助産師
5. 自己肯定感の高い子に育つための環境づくりを目指している
6. 様々なジャンルの多様な方との交流の場が多い

【学童保育ばーす千秋が意識的に取り入れていること】

1. ひとりっ子にも兄弟喧嘩の機会を
2. 高校生・大学生くらいのちょっと年の離れた心の兄貴、心のお姉さんの存在を
3. 主体的に自分の意見を言える子を目指す
4. 「興味の種」を見つけた時が、はじめるとき
5. 何かあった時こそ、褒めて帰したい
6. お父さんお母さんがポロリと愚痴をこぼせる場所に

2. 【基本の保育スケジュール】

① 平日

学校終了後、来所
15:00 学習タイム
おやつ
(習い事)
15:30 自由遊び、イベント
17:30 リラックスタイム (掃除・整理整頓・帰りの準備・読書など)
18:30 通常保育終了(以降延長保育)
20:00 閉所

② 土曜日

7:00～ 開所
随時 登園 学習タイム 自由遊び
12:00 昼食
13:00 自由遊び 学習
14:30 おやつ
15:00 通常保育終了(以降延長保育)
20:00 閉所

③ 長期休み期間

7:00 開所
随時 登園 学習タイム
12:00 昼食
13:00 自由遊び 学習
15:00 おやつ
17:30 リラックスタイム (掃除・整理整頓・帰りの準備・読書など)
18:30 通常保育終了(以降延長保育)
20:00 閉所

- ・基本的には、常時各自自由行動です。昼食時以外は、全員が一堂に会する場面はありません。工作や運動、ダンスや音楽ほか、外部講師によるワークショップ等様々なコンテンツを、年間を通して提案しますが、必須参加とせず、希望者のみで行うことを基本としています。
- ・17:30～のリラックスタイムは、スムーズに帰るために一度クールダウンをする時間です。
- ・宿題、家庭学習について、自由遊びの前に終わらせるよう促しますが、強制的に無理矢理やらせても意味がないので、自主性を尊重しています。「必ず終わらせるようにしてほしい」等の希望には添えない場合があります。
- ・延長料金のカウントは、保護者による玄関でのタブレット打刻時間に沿って計算されます。
18:31 から、延長料金が発生します。19:01、19:31 と 30分毎に加算されます。
17:30～18:30 は、渋滞が予想されますので、余裕をもってお越しくください。
- ・到着 10分程度前にお電話ください。帰りの準備を済ませ、玄関に待機させますのでスムーズです。

3. 各種決まりごとについて

【登降室時のルールについて】

○ 下校~来所

・ 明德小

基本的には、自分で当施設まで歩いての来所となります。

千秋トンネルを通過しての下校コースです。

施設までは年長児のペースで歩いて約 10 分です。

最初は校門前にて、先生から引き継ぎ、一緒にトンネルを通過して学童へ向かいます。

同学年全員でそろって下校、の習慣化を行います。

引率は遅くとも夏休み前までをメドにしており、様子を見て時期は調整します。

・ 附属小学校

学校の基本方針にあわせ、基本的には歩いての来所となります。

最初は校門前にてスタッフが迎え、一緒に下校します。

引率は遅くとも 6 月ころまでをメドにしており、様子を見て時期は調整します。

施設までは年長児のペースで歩いて、約 20 分弱です。

※ 明德・附属ともに、猛暑や悪天候等、歩いての下校は厳しい、
という時は送迎にするなど、柔軟に対応しますので、都度ご質問ください。

・ その他の小学校

「児童センター利用組」として下校させてください。

その日の利用児童の状況に合わせ、順番に児童センターにお迎えに行きます。

学校 → 児童センター → 学童保育 といった流れです。

○ 学童保育利用中の出入りは、保護者の了承が必要です。

基本的に施錠し、勝手に外に出ることがないようにしています。

○ お迎えについて

・ 保護者のお迎えが原則で、それ以外は事前連絡が必要です。

保護者以外の方（普段は来ない祖父母や叔父叔母など）がお迎えの場合は事前にお知らせください。連絡がない場合は、引き渡しません。

・ 駐車場は、前面にある駐車スペースをご利用ください。

【アレルギー対応】

○ 食べ物や薬品アレルギー等がある方は、申込時にお知らせください

【保健衛生面】

○ 学校が感染防止のため臨時休校した場合、当該学級・学年の児童も利用できません。

○ 発熱や、咳がひどい場合などは、利用を控えるようお願いいたします。

○ 学童利用中にケガや体調を崩した場合、保護者のお迎えが必要です。

発熱等の場合は、他児童との接触を避け、安静室にて安静にさせています。

その際は急遽の早めのお迎えをお願いすることがありますので、対応をお願い致します。

- 緊急時を除き、病院へは基本的に保護者による通院をお願いしています。

【昼食・おやつ等について】

- 土曜日・振替日・長期休業中は、水筒を持参してください。
なお、中身は、水かお茶とし、スポーツドリンク等はいれないでください。
- 昼食が必要な場合は、「お弁当を持参する」「注文する」の二択となります。
長期休みの場合は、事前一括で業者注文をします。
利用予定表にお弁当注文欄がありますので注文する場合は記入して下さい。
土曜日・振替日は、都度お弁当の注文を取りますので、当日朝にお伝えください。
「注文する」場合、実費精算となり、翌月の集金時に施設利用料と合わせてお弁当代が加算されて請求されます。
- 夏季期間中は、食中毒を考慮し、持参のお弁当には保冷剤をお願いします。
冷蔵庫もありますが、すべて入りきらない場合があります。
小さいゼリーやフルーツなどで本人の食がスムーズになるのならば入れて構いませんが、過度のものだとほかの子がうらやましがり逆効果になりますのでご配慮をお願いします。
- おやつ以外の時間は、施設で飲食できません。お菓子等は持たせないでください。
持参していた場合、指導員が一時保管し、保護者にお渡しします。

4. 持ち物について

【初日の持ち物】

- 着替え一式（上下衣服、上下肌着、靴下等）
 - 着替えを入れて下げておくためのバッグ・袋等
 - 汚れものを入れるビニール袋
 - 汗拭きタオル
 - 水筒（水かお茶のみ）
- ひとりひとりに、専用のかごを用意しますので、常時保管できます。

【通常の持ち物】

上記に加え、家庭学習や宿題用のノート、筆記用具など

【着替えの補充】

着替えを使用した場合は、翌利用時に着替えの補充をお願いします。

【内履き】

基本的に、はだしで活動を行います。

【外靴】

野外活動を行う場合があります。（多くはありませんが）

学校同様、かかとの固定できないサンダル等は履かせないでください。

【貴重品について】

玩具やゲーム、マンガ等貴重品の持参は禁じます。学校ルールに準じています。
持参していた場合、指導員が一時保管し、保護者に返還します。
施設内で破損や紛失してしまった場合でも、自己責任となり、保証できません。

ただし、現在「ポケモンカード部」が発足しており、土曜日のみ、ポケモンカードの持参を許可しています。(破損や紛失についても自己責任、保護者の承諾が必要としています)
新一年生でも、保護者の了解があれば、「ポケカ部」への入部は可能です。

5. 習いごとについて

現在、ピアノ、書道、速読の教室があります。体験授業は随時受け付けております。
ご興味のある方は、お知らせください。

新1年生については、学校でのリズムに慣れた後(GW明け頃)から、をお勧めしています。

6. 写真撮影、SNS発信等について

インスタグラムで、日々の活動についての発信をしています。

基本的には顔を写さない写真が中心ですが、良い写真は紹介できればと考えています。

SNS上にお子様の顔を載せたくない場合は、個別でお知らせください。対応します。

日ごろの活動を時々撮影していますので、良い写真が撮れましたら随時お渡しします。

業界関係の知人が多いこともあり、取材の依頼が時々あります。

取材等のご縁があった場合、よい機会なので積極的に受けていく方針です。

SNS同様、こういったメディアにも映りたくない場合も個別でお知らせください。

7. 体育指導について

施設長 石岡大輔は、前職カワイ体育教室にて体育講師をしていました。

うまい子をもっとうまく、よりも、うまくできなくてはいじっこでふてくされている子に
スポットを当てた指導を得意としています。

とび箱、逆上がり等指導できます。専門は水泳でした。

習いごとと違い、毎週定時での活動は行いませんが、自由遊びの時間に、リクエストに合わせて体育指導を行っています。

苦手な子はなかなか踏み出してきませんが、折を見て声掛けをし、

やってみようかなスイッチが入るタイミングを見逃さないように、フォローしていきます。

運動に限らずですが、何にでも積極的に挑戦できる子に育てていくには、

周りの大人からの声掛けがとても大切になっていきます。(特に保護者からの)

「私、運動ダメだったから、この子も全然ダメで」などと日頃から言うてしまうと、

子は真に受けて「自分は、運動できないんだ・・・」と思い込んでしまいがちで、

はじめからやらない、すぐにあきらめてしまう、といった行動に表れてきます。

日本人の美德「謙遜」は子育てや夫婦間では、全く持って不要ですよ。

「今はできなくなっちゃったけど、小学生の頃はすごかったんだよー！！(エッヘン!)」

(「すごかった」は主観なので、嘘にはなりません)

「あなたにはムリ」の積み重ねは、心を削ります。

「すごい！すてき！かっこいい！」の積み重ねは、根っこの自信になっていきます。
ネガティブではなく、ポジティブな言葉をかけてあげる習慣を意識してみてください。
その積み重ねの先に、いろんなことに積極的に挑戦できる子が育っていきます。

なお、活動の中でとび箱や逆上がり、側転などが上手くできた時は、お迎え時に披露させるようにしています。(運動に限らずですが)

お急ぎでなければ、見てあげて、思い切り褒めてあげてください。
家族から褒められる、は何にも代えがたい自信となっていきます。

8. 性教育について

副施設長 石岡真理子は、「産前産後ケアハウス 助産院ばーす」の助産師として活動するとともに、小中高校等で「いのちの授業」「性教育」等も行っています。

世界基準の「包括的性教育」では、日本での狭い意味の性教育ではなく、よりよく生きるための「自分の心と体の権利」や自分も周りも大切にして生きるための方法を、5歳から18歳まで段階的に教えています。低学年は、幼児期の延長の内容で「自分の心と体は自分だけの大切なもの」ということを理解し、自分と同じように、お友達も大事だということを中心に、「プライベートパーツ」や「いのちを引き継ぐための身体の仕組み」など理解できるよう絵本や布製の人形教材等を用い、伝えていきます。内容はおうちの方へも共有していきます。小学生になると、思春期の心と体の変化が学年が上がるごとに顕著に見えてきます。個人差も激しいので、保護者の皆様も不安なことが多々あると思います。心や体に関しての相談は、個別でも受けていますので、何かお困りのことがありましたら、ご相談ください。

9. 子育て相談等

施設長、副施設長は現在、大1、高2、小4、小1の四人を育てています。

また、当施設スタッフは、長年児童指導に従事しているベテランが揃っています。

困りごとは一人で抱えても良いことはありませんので、大事になる前にお声がけください。
誰かに話すだけでも、心が軽くなり、解決に向け前に進めるかもしれません。

副施設長 石岡真理子による個別の育児相談をご希望の場合は随時お申し出ください。

(当学童利用児の保護者の方：育児相談料金は無料です。1人60分程度となります。)

なお、助産院ばーすでは、有料の育児相談、個別の親子性教育教室も行っています。

10. 施設長の立ち位置、スタンスについて

施設長は、「高田純次さん」を目指す人物像としています。

そして、「野原ヒロシ(クレヨンしんちゃん)」の立ち居振る舞いを意識的にとっています。

つまり、しょうもないことやテキトーなことを言ったり、「それぐらいいいじゃない」と子どものちょっとしたズルを肯定してみたり一緒にふざけてみたり、一緒にダラダラしてみたりします。それらは、他の先生から子どもと一緒に叱られるような「子供側の大人」という立ち位置です。おふざけが過ぎて、子どもたちにたしなめられたりする場面も時々あります。

合わせて、唯一の親年代の男性職員でもありますので、「がっつりと叱る担当」でもあります。

新1年生入学初日、自分のことを「だいこん先生」と名乗ります。

そして、いつもふざけたりしているので「だいこん」などと呼び捨ててで呼ぶ子どもたくさんいますが、対施設長、という点では全く問題ありません。

「子供側の大人」であるための一つの方法ですので、気になさらないでください。

(たいていの場合は、夏休み前には落ち着きます。)

これらのことは、後述の兄弟げんか同様、どこまでだったら大丈夫で、どの線からはダメなのか、という経験をしてもらうべく、意識的に「ゆるい部分」を作っている故、です。

① ニコニコしながら「やめとけよー」と言われている段階

② 真面目な顔で「やめとけな」といわれる段階

③ 有無を言わず叱られてしまう段階

という3段階を、ぶれずに子供たちに見せています。

基本的には、

「ケガの恐れがあること」

「その先でいじめ等に発展してしまうかもしれないからかい等」

「秩序を著しく損なう可能性のあるわがまま」

「お約束をないがしろにする行動」

などについて、指導しています。

子どもなので、ふざけたり調子に乗ってしまうことは自然なことです。

が、度を越したおふざけは時に凶器です。

施設長の顔色が変わる線は、友達にやってはいけない線のちょっと手前の線です。

線を越えず、自分で止められるようになれば、不要な人間関係の軋轢も減らせるはずです。

日々の生活で、施設長で練習し、友達関係を良好に作ってってもらいたいと考えています。

ちなみに、いつもへらへらとしていますので、真顔になって真面目に話すだけで、違いを察知しておふざけを止める子がほとんどです。

そのため、「②真面目な顔で「やめとけな」といわれる段階」でほとんどの場合、終わります。

大人の男ですから、暴力はもってのほかとしても、「大声で怒鳴る」「不機嫌な雰囲気で威嚇する」

「いつまでも怒りの感情を引きずって周りに気を遣わせる」等は、ただただ恐怖の対象にしかなりません。叱られたとしても、その場をやり過ごすために反省したようなパフォーマンスをするだけで、何が原因だったか、どうすればよかったか、などと深堀したりすることはありません。それでは根本的な解決には至りませんし、何の意味もなくなってしまいます。

ダメなものはダメですし、何度も同じことで周りに迷惑をかけてしまっているのであれば、しっかりと自分事として考えてもらう必要があります。

家庭内でも、学校でもないからこそ、ちょっと気が抜けてわがままになったり、「素」がぼろっと出たりする、それが学童での時間です。

でもそれらはこの子たちそれぞれの個性や特徴のひとつなだけであり、それ自体を全否定する必要はありません。ただ、その「個性や特徴」のせいでうまくいかないのであれば、「ではどうすればうまくいくのか」を学ぶ必要があります、その練習は、やはり実践でしか身につけません。

自分で乗り越えてこそ、の成長なので、極力大人は手を出さず見守ります。
もしも、の時は、そっと横につき、一緒に考え、解決の方法を見つけるお手伝いをします。
親子だからこそ、距離が近すぎてこういった「叱る」「諭す」がうまくいかない時があります。
そんな時は、遠慮せず我々をうまくご活用ください。

11. 「褒めて帰す」に一緒になって乗っていただくことへのご協力

お迎え時、「ちょっとお母さん！実は…」と、子どもの耳にもぎりぎり届くくらいの感じで、話しかける時があります。その時のご協力をお願いします。

内容としては、今日はすぐに勉強に取り掛かった、手伝いしてくれた、泣いてしまった子に話しかけていた、片付けが早くきれいだったなど、日常のなんでもない一コマについての報告です。通常、小学生くらいの年齢だと、調子に乗ってしまって叱られる場面の方が多くなりがちです。が、叱られて伸びる子、なんてのはごく少数で、やはり褒められた方が気持ちよく物事に取り組めることがほとんどです。

そこで我々は、活動の中で何か、褒められるポイントはないか、と観察しています。

「ちょっとお母さん！実は今日、〇〇があったんだけど、〇〇君その時こうやっていて、さすが、小学生になると違うねー。かっこいいねーって思って。」などと言ってきた場合、「えっ！そうなのー！すごいじゃーん！」などと、話に乗っていただけると嬉しいです。

子どもたちは、やはり親に褒められることがとても大好きです。

重要なのはその「内容」ではなく「褒められること自体」さらに言うと、「他者から自分が褒められたことで親が喜んでいる」という状況です。

家までの車中の短い時間だけでも、「先生に褒められたねー。うれしいねー」と余韻を共有して頂くと、次の日からは、その「褒められた行動」が基本行動へと変わっていきます。

そして、もし可能でしたら、家に帰ってから「さっき先生に褒められてね、お母さんもうれしかったんだよね」と家族にも共有してみてください。

この積み重ねが、自己肯定感の高い子を育て、良好な親子関係を構築します。

12. その他

・子どもの居場所作りプロジェクト

現在、学童保育の運営と平行し、学校に行けなくなった、あるいは、行かないと決めた、という子の居場所作りを模索しています。

もし、このあたりでお悩みをお持ちの方が周りにいらっしゃいましたら、お声がけください。

・「こども会議」

生徒会執行部のような活動をしています。

具体的には、「より良い時間を過ごすために自分たちでアイデアを出し合って実現させるための会議」です。

自分たちでやりたいことや買ってほしい教材などについて意見を出し合います。

大人はただただ見守るだけです。どうしても実現したいことがあるのならば、施設長にプレゼンして勝ち取るように、と伝えています。

結果、今学童内に「ポケカ部」や「イベント部」「ダンス部」「メイク部」「クッキング部」等が立ち上がり、機材を揃えたり、ポケカ大会を実施したり、といろんな変化が起きています。

「楽しいは、与えられるものではなく、自分で生み出すもの、感じるもの」を実践すべく、

主体的に動ける子になるように、の場面を作っています。

こども会議参加は1年生でも可能です。

慣れてきたころに、1年生たちにも声をかけてみますので、成長を楽しみにしてください。

・ケンカやトラブルについて

子供たちの生活の中では、少なからず、ケンカや友達同士のトラブルはあるものです。

ご家庭でも、その日にあったことなど、お子さんが話をすることがあると思いますので、ぜひ話に耳を傾けて、受け止めて頂きたいと思います。

「そっかー、そんなことがあったんだね。それは悲しかったね」などと、「よい、悪い」ではなく気持ちに寄り添う言葉がけをしてあげてください。

こうすることで、「ああ、お母さん・お父さんは自分の味方でいてくれるんだ」と実感します。

また、小学生になると、心身の成長に伴い、幼児期までとはすべての勝手が変わってきます。

「ちょっと押した」くらいのつもりでも「突き飛ばした」状態になってしまう、ということも多々あります。

売り言葉買い言葉で言い放ってしまった言葉、言われてしまった言葉に、必要以上に傷つく場面もあるかと思います。

「この線以上のことをしてしまうとダメなんだ。」

そういったことは、親子ではなかなか学びきることができません。

兄弟がいれば、兄弟げんかで経験できますが、ひとりっ子の場合、そうはいきません。

家でおとなしくても、なかなかのきかんぼう、わがままっこ、ということもよくある話です。

当施設では、基本的にはケンカは最初、すぐに止めたりせず、見守るようにしています。

血が上りすぎてしまっていたり、ケガの心配がある場合はもちろん、すぐに止めますが、疑似兄弟げんかの場面を経験させています。

そのうえで、

① なぜ怒っているのか、何が問題だったのか、という状況をそれぞれから聞き、

② 中立の立場から今回のもめごとの原因の共有、誤解があるならばその解消、

ではどうすればもめなかったか、の対策、を一緒に考え、

③ そのうえでお互いに落ち着き納得し、ちゃんのごめんね、を言える着地を目指します。

もちろん、悪いことは悪いことなので、がっつりと叱らねばならない時は、自分の子供に対してと同様に、がっつりと叱りますが、基本的には「叱る」ではなく「諭す」のスタンスです。上記のような「がっつりと叱る」を行った場合、保護者共有をしますが、本人はもうこっぴどく叱られておりますので、帰りの車中でまた叱る、ということはしないようにお願いします。何度も叱られると、やさぐれてしまいますので…（ここは、お願いです）

通常は、前述の通り「～でがっつりと叱られたけど、そのあともう良かった。」とフォローして持ち上げて終わります。

なお、一般的には成長に伴い、自分にとって都合の悪いことは、言わなくなってきます。

ケンカにおいて「100対0」でどちらかだけが悪い、ということはほとんどありません。

子どもの声はしっかりと正面で受け止めつつ、鵜呑みにはしないようにお気を付けください。

親が子供につられてメラメラしてしまうと、解決が遠のく場合もあります。

- ・入学最初の2か月くらいは、旅行やイベント参加よりもうちでゆっくり、のほうがいい場合も多いです。お仕事がお休みなのであれば、お子様とぜひ、ゆっくり過ごしてみてください。入学当初は、不安も多く、疲れがたまりやすくなりがちです。意識的にクールダウンの時間を作ってみてください。

- ・兄弟がいる場合、下の子につきっきりで、上の子がおざなり、ということも起こります。そんな時はたまに、「お母さんを独占できる時間」を作ってみてください。例えば「1時間、二人きりでパフェデート」それだけでも子どもの心は満たされます。そういう時間作りの時にも、学童をうまくご活用ください。

・最後に

幼児から小学生になることで、一気に世界が広がります。不安が大きくなってしまふこともあれば、頑張りすぎて疲れてしまうこともあるはず。それは、子どもはもちろん、保護者の皆様も同様です。

学童保育ばーす千秋は、皆様の「第二の実家」を目指しております。それは、子ども達だけでなく、保護者に対しても、です。気の許せる親戚のおじおば、いとこの兄ちゃん姉ちゃん、でありたい、と考えています。

お父さんお母さんの心に余裕がないと、子ども達はそれを敏感に感じ取ります。結果、不安定になったり、問題行動を起こして気を引こうとします。

大人が輝くと、子ども達も輝き、子ども達が輝くと、未来が輝いていきます。もちろん、その逆も、然りです。

保護者の皆様の心に余裕がなくなりそうなときは、ぜひ、お声がけください。子どもの問題行動の根っこに、「保護者の、余裕のなさからくる不安定さや家族不和」が影響していることがとても多いです。

「怒り」「不安」「悲しみ」・・・そういったものは、溜め込めばどんどん膨れていきます。そんな負の感情が心の中に溜まってくると、呼応するように子どもたちもなんだか不安定になっていきます。だから、そうなる前に、お声がけください。

誰かに話すだけでも、心は軽くなるものです。

「家族や友達には近すぎて言えないけれど」な感情は、いろいろ知っているが友達ではない、そんなちょうどよい立ち位置の我々をうまく使ってください。

子どもの安定の最重要条件は「家族が笑顔で幸せそうであること」です。

みんなで、子どもたちの健やかな成長と、輝くこれからを見守っていきましょう。これからどうぞ、よろしくお願ひ致します。

学童保育ばーす千秋
施設長 石岡大輔
スタッフ一同